

## 平和・人権・国際連帯の広がりをめざして

### I 研究の内容

#### 1. 主題設定の理由

本主題は以下の2点に理由により設定した。

第1に部員12人が持つ問題意識である。今世紀に入っても世界中で戦争や紛争は後を絶たない。一人一人の人間が尊厳を持つかけがえない存在であるという人類の共通理念「人権の尊重」を、国や民族を超えて守られる社会を築くためにも、平和や人権教育を推し進めていくことが必要である。

部員一人一人が、その意識の広がりを願っていることを、様々な社会事象や身近な子どもたちの様子から強く感じ、共有できる部分を探りながら、平和・人権・国際連帯という視点からお互いの見識を深めていこうと考えたからである。

第2に現在社会の実情である。紛争やテロ事件で日常的に尊い人命が失われていく毎日、国内においても新自由主義のもと、経済的な格差が生じ一人一人が持つ基本的人権の保護の危機がある。また、身近なところにも男女・高齢者や子どもたちへの問題・出身地、出生の問題、外国人の問題等いろいろな差別が存在するからである。

平和や人権意識は、自分たちで築いていくという認識を持って身近な子供たちと関わっていくことが大切である。私たちの一番の身近にいる子どもたちが、他者をありのまま受け入れる意識を持ち、行動できるようにと願い本主題を設定した。

#### 2. 研究の方法

- (1) 一人一実践をして、部会に提案する。
- (2) 学習会を開催する。
- (3) 臨地研修・学習会をする。

### II 成果と課題

#### 1. 成果

- ・一人1実践をおしたことにより、各職場の校内研や各自の課題に沿って提案・討議が深まった。子どもたち一人一人を大切にしたい実践ばかりであった
- ・一人ひとりの実践が素晴らしく、その実践を直接聞け、話し合いの中で理解を深められたことがよかった。また、それを自分の実践に役立てることができた。
- ・八幡小学校3年生の研究授業を通して、友だちの個性を認め、自分のよさや特徴に気づき友だちとの相違点を肯定的にとらえお互いを尊重することの大切さを共

通認識することができた。

- ・大藤小学校の5年生の研究授業を通し、寒中見舞いを書く活動から相手を思いやる心のつながりの大切さとともに、日常の望ましい児童間の人間関係を築くための教師の支援や認め合う事の大切さを共通理解することができた。
- ・9月・1月に行われた統一授業研では、腰巻さん、町田さんに快く授業を提供していただき、部員の共通認識を持つことができた。
- ・2回の学習会では、日本赤十字山梨支部の方から日本赤十字の歴史、ジュネーブ条約の意味や人道支援活動の内容や考え方を、また樋口教頭先生から日本赤十字の活動や理念を学校で生かすための方法をワークショップ的な手法を通して知ることができた。

## 2. 課題

- ・少人数の部会の中、2回の授業研究をすることができた。テーマにある「～広がりをめざして～」はそれぞれの部員が自分の職場で授業実践を行い、そこから広げていくことが大切ではないかと思う。
- ・平和・人権・国際連帯の資料収集を積み重ねができると、より深められるのではないか。

## Ⅲ成果物

### 1. 活動案

- ・1年生「チクチクことばとふわふわことば」人権 廣瀬みどり
- ・1年生「生命尊重 いのちのあさがお」人権 川崎幸江
- ・2年生「地球に生きるひとりとして、考えよう」 国際・平和 雨宮由緑
- ・2年生「自分を大切に」わたしってだれ 人権 甘利志賀峰
- ・3年生「よいとこたし算」人権 個性のたし算（県教研レポート） 腰巻笑里美
- ・3年生「本と友だち」 外国の本を紹介しよう 国際 高添勉
- ・5年生「人にやさしい町づくり」 寒中お見舞を出すぞ 人権 町田信次
- ・5年生「相手も自分も大切にしたい言葉で伝えよう」 人権 武井由美
- ・6年生「思いやり、親切とは・・・」ボランティア 人権 前島国学

### 2. 資料

- ・「日本赤十字と国際人道法」ワークシート 樋口美根夫
- ・「国際人道法・国際赤十字と学校」 日本赤十字社
- ・在留外国人子女と日本語指導 岡安男

(部長 高添 勉)